

東京都新宿区北新宿1-8-16
 東京土建一般労働組合
 電話03 (5332) 3971 (代表)
 FAX03 (5332) 3972
 発行人・編集人
 三木 勉

印刷部数11万1600部

(購読料は組合費のなかに含まれています)

(年間購読料 千八百円)

定価 五十円



東京土建のホームページ <http://www.tokyo-doken.or.jp/>

東京五輪現場
情報の提供を

晴海オリンピック選手村建設現場で、周辺コンビニへ現場従事者の立ち入りが禁止されています。人権を侵害する大問題です。情報がある方は所属支部までご連絡ください。

春一番拡大運動は2月から全都で統一行動が本格化。2月21日時点の加入数は890人(拡大率0.78%)です。確定申告相談などで仲間と話し、一気に運動量を上げます。

春一番拡大が本格行動
相談・訪問で仲間とつながる



新橋駅前で一斉にプラカードアピール



土田さん(前列左から2人目)を迎えて笑顔の高松分会の仲間

多摩西部
労災と資格取得で加入
ベテランが支える高松分会

1月から始まった春一番拡大月間。多摩西部支部の成果は1月登録日終了時点で目標103人に対して6人。これから3月にかけて確定申告相談が本格化し、新年度に向けた新たな従業員雇用、独立による労災の加入など様々な要求が出される時期となります。同支部では、2月20・27日、3月12・17日を統一行動日に設定し、各分会で訪問行動を呼びかけました。

統一行動初日にあたる2月20日、高松分会ではセンターである鶴岡前支部委員長宅に14人の仲間が集まりました。この日、分会後継者対策部長を務める金子知生さんが、加入手続きのために弟・俊也

さんの彼女である土田智子さんを連れてきてくれました。まだ23歳という若さの智子さんは、俊也さんのところで電気工事を手伝うようになって2年になるそうです。加入目的をたずねると、労災の特別加入と、まだ資格を持っていないのでこれから資格取得をしたいとのこと。

「資格をとったらお祝い金が出るよ」「結婚したら5万円もらえるからね」との外野の賑やかなヤジに、「5万円欲しいに結婚はしないです」と笑顔でキッパリ返す智子さん。

黙原成行分会長は、「ベテランの仲間を支えられて、今回も達成できそうです」と力強く語ってくれました。

江戸川
ドローンを話題に
自転車保険、民法改正も



江戸川建設業協会を訪問する(左から)清水副委員長と江成書記長

江戸川支部の春一番拡大は、2月に分会として3日の行動日をもうけるとともに、昼間の事業所訪問行動を実施しています。

2月7日、清水副委員長と江成書記長の組は午前中だけで3件を訪問しました。最初に訪れたのは、江戸川建設業協会の事務所。協会と支部は江戸川区のイベントなどを通じて友好的な関係にあります。

移動の車中、清水さんが葛西第2分会では6人の加入予定。春一番達成のメドがたちそうです」と、明るい話に花が咲きます。

来賓として、末松義規(立憲・衆院)、田村智子(共産・参院)、福島みずほ(社民・参院)の各議員から連帯と激励のあいさつがありました。

集会は、千葉土建、建交労、神奈川県連、生公連の仲間より現場からの報告を受け、行動提起を確認し、集会アピールを全体で採択して閉会。

その後、参加者は新橋駅前に移動し、黄色い手手を着け、プラカードを掲げての宣伝行動を行いました。

請求・要求が大前提

新橋駅前イエローAに442人

「建設労働者なくして災害復興なし! 建設労働者に大幅賃上げを! 建設現場に週休2日を!」をメインスローガンに、2月19日、「建設労働者2・19春闘イエローアクション」を開催。主催は建設関係労働組合首都圏共闘会議と生生活闘連公共事業推進連絡会議で、集会会場となったニッショールには1県連・10団体から442人(東京土建は206人)が集まりました。

労働条件の改善こそが魅力ある建設産業への道だと運動の強化を呼びかけました。全建連連からのあいさつでは、長谷部賃金対策部長が全建連連の賃金実態調査の結果

前提だと、取り組みへの決意を述べました。また菅原東京都連委員長は賃金確保のため建設キャリアアップシステムを確立し、経歴を加えた新4Kにしようと呼びかけました。

■横田基地に
近い立川市や武蔵村山市の井戸で、有毒な有機フッ素化合物(PFOs/PFOA)が米国の飲料水の勧告値を超える濃度で検出された。昨年1月の東京都の調査結果だが公表していなかった。これを朝日新聞が情報開示請求して報道したところ、横田基地で使用された泡消火剤の影響が疑われ、周辺住民に不安を与えている。

■沖縄県では嘉手納基地周辺の浄水場から、有機フッ素化合物が高濃度で検出されている。水道水の汚染が心配され、沖縄県は昨年6月、国に基準値設定を求めた。厚労省は世界保健機関も基準値を示していないとして設定を見送ってきたが、ここで暫定目標を設定し4月1日から適用する。

■有機フッ素化合物はかつて防水スプレーやフッ素樹脂加工のフライパンなどの日用品に使用されたが輸入禁止などの規制が進んでいた。ここで飲料水が汚染されたのではたまらない。東京都は米国側に横田基地での実態を照会しているが、「16年以降PFOsを含む泡消火剤は使っていない」とだけ回答。全貌を明らかにしていない。水ジャーナリストの橋本淳司さんは地下水の流れを可視化することで、どの地点の土壌汚染が原因なのか推測できると指摘している。東京都は原因を究明し住民の安全を確保する責任がある。